

第4回軌道メンテナンスに関する日英ワークショップを開催しました

2018年12月28日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）とサウサンプトン大学は、去る2018年11月22日、英国ウィンチェスターにて「第4回軌道メンテナンスに関する日英ワークショップ」を開催しましたのでお知らせします。

鉄道総研は、軌道のメンテナンスに関する日本と英国の共通の課題を抽出し、将来的な共同プロジェクトに繋げるための情報交換を目的として、2013年から「軌道メンテナンスに関する日英ワークショップ」を開催しています。第4回となる今回のワークショップでは、高速鉄道を含む軌道の課題を対象として意見交換が行われ、鉄道総研、日英の6大学および日本の鉄道事業者2社から計35名が参加し、ウィンチェスター大聖堂ウェセックスセンター会議室で開催されました。

ワークショップでは、サウサンプトン大学パウリ教授の開会挨拶に続き、英国からはHS1^{*1}の軌道保守、繊維補強した道床バラストの研究状況、軌道に関わる試験装置、HS2^{*2}の建設計画を見据えた軌道の設計等に関する8件の発表が、日本からは新幹線の保守、バラストの力学特性、軌道の振動問題等に関する7件の計15件の発表があり、バラスト軌道およびスラブ軌道に関する最新の研究成果に関する情報を交換しました。最後に、鉄道総研 桃谷軌道・路盤研究室長およびサウサンプトン大学パウリ教授から閉会挨拶があり、日英両国において、バラスト軌道およびスラブ軌道のメンテナンスや高速鉄道の設計は共通の重要な課題であり、今後も情報交換を続けていくことを合意しました。

サウサンプトン大学 パウリ教授 開会挨拶要旨：

本ワークショップは今回が4回目の開催。当初はバラスト軌道に関する話題が中心だったが、2回目以降は高速鉄道やスラブ軌道に関する話題も対象としている。英国ではHS2計画があり、バラスト軌道、スラブ軌道のどちらを採用すべきか、との議論もなされている。本ワークショップでは、それらに関する内容を含め、15件の講演を予定する。活発な議論を期待する。

鉄道総研 桃谷軌道・路盤研究室長 閉会挨拶要旨：

今回はバラスト軌道、スラブ軌道について多岐に渡る講演があった。いずれも日英共通の課題であり、今後の研究開発が必要とされる。次回は2020年に鉄道総研またはリーズ大学で開催することを提案したい。

サウサンプトン大学 パウリ教授 閉会挨拶要旨：

バラスト軌道のメンテナンス、高速鉄道の設計、騒音・振動等に関する多くの発表があり、非常に興味深いワークショップとなった。日英の研究者間のつながりを維持し、5回目のワークショップ開催につなげたい。

- *1) HS1 : High Speed One. 英仏海峡トンネル出口とロンドン市内のセント・パンクラス駅を結ぶ英国の高速鉄道路線。
- *2) HS2 : High Speed Two. HS1に引き続き計画されている英国の高速鉄道。第一期としてロンドン～バーミンガムの2026年開業を計画している。



開会の挨拶をするパウリ教授



閉会の挨拶をする桃谷室長